



こうして感謝の気持ちを伝えたりして気持ちを通い合わせることは、お互いの信頼関係を構築する上でとても大事なことですね。

夫が育児を体験するタイミングとしては第一子の段階が最適です。子どもが産まれる前から、両親学級などと一緒にスタートできると更にいいですね。初体験の育児を夫婦で試行錯誤しながら覚えていくと戦友になれ、一緒に育児のスキルをあげることが出来ます。

夫婦で育児家事スキルに差がなくなると、例えば、妻が仕事と育児の両立に不安で仕事を辞めたとしても、育児家事に専念する必要性が薄れるので、再就労が早まることでしょう。

今、出産育児により仕事を辞めたママは末子が平均4.8歳で再就職しています。子どもが二歳差で二人いたら、7年のブランクができる。仕事を辞めたと同時にまた働きたいと考えている女性が7割いて、実際の数字と希望にす

ごくギャップがあるのですが、これらの問題は妻に育児家事が偏っていることが原因と言われています。

家庭だけで解決できない問題として、保育施設の待機児童や長時間労働があります。しかし、例えば待機児童の問題が解決できたとしても家庭内で育児家事の負担が女性に偏っている限り、女性は職場での活躍が制限されます。実は夫の家事育児分担当が鍵なのです。

また、仕事の忙しさを理由にする父親も多いですが、忙しい父親たちの中には、やり方や時間の使い方を工夫して育児家事を実践している人はいます。やはり自分の決意と覚悟次第。妻や子どもに対して優先順位を高く意識して仕事と両立しているロールモデルに出会えると、仕事を言い訳にできないことが分かります。

### 自己成長のチャンスは生活の中に隠れている



地域や育児、仕事という異なる経験は父親を成長させます。家庭や地域の日常的な体験も、意外と仕事で活かせるんだなと気づき、地域の人脈が増え、社会問題に目を向け、中長期的な視野

が備わるなど、職場だけで得られない様々な発見が人間力のアップにつながります。ワーク・ライフ・バランスが自分自身のプラスに、自己成長につながるのです。

日本の男性は現状の働き方に疑問を持つていない人が多い。長時間労働の人に、今よりも家庭での時間がほしいかアンケートをとったところ、世界的には長時間労働の人ほど家庭の時間をつくりたいという結果が出るのですが、日本ではそうならないのです。

仕事一筋で疑問を持つていない人にライフの話をしてピンとこないでしょうから、まずは、男性が家事育児に積極的になると、家庭や社会に大きな効果を生むという情報を提供する。徐々にライフの体験が増えてくれば、ワーク・ライフ・バランスをとろうとするのにできない状況に直面して、本人の中で葛藤が起こる。この葛藤が、職



場や家庭でギャップを縮めようと努力する姿勢につながります。

上司など団塊の世代の人達との間に考え方や価値観のギャップがあり、動きが取れないこともあります。価値観の押し付け合いはお互い不幸です。世代間でいかに違いがあるかを知り、互いに認め合うことから始めましょう。

### 家族みんなでハッピーになるさー！



ワーク・ライフ・バランスを最初から出来ないものと考えないで、まずは自分の家庭をどうやってハッピーにしようかと考えましょう。そして団塊の世代にも、イマドキの夫婦は仕事も仕事以外も楽しんでいることをどんどん見せていきたいですね。結果、夫婦どちらか一方が相手の選好に従うのではなく、夫婦どちらも自分らしい生き方ができる。こういったスパイラルが広がって行けばいいなと思っています。

子どもはパパもママも求めている。稼ぐだけが自分の役割ではないということを感じてほしい。仕事以外の方法でも、パパは家族の幸せを産み出せるんだということに気づいてほしいですね。